

団体名	忠臣蔵交流楽碁会	活動名	忠臣蔵交流囲碁大会 ;及び こども囲碁教室の開催
-----	----------	-----	-----------------------------

## 1 事業の実施内容

① 実施場所 (地域)	② 実施期間 (開催準備期間を含む)
忠臣蔵交流囲碁大会 平成 25 年 11 月 30 日～12 月 1 日 関西福祉大学	忠臣蔵交流囲碁大会 自 平成 25 年 4 月 1 日 至 平成 25 年 12 月 25 日
こども囲碁教室 入門クラス 赤穂市加里屋まちづくり会館 初級クラス 赤穂市加里屋楽碁会囲碁サロン	こども囲碁教室 自 平成 25 年 4 月 1 日 至 平成 26 年 2 月 2 日

## ③ 実施体制

忠臣蔵交流及びチビッ子囲碁大会 実行委員 22 名、他 15 名 (傘踊り、ボランティア)

こども囲碁教室 講師 8 名

## ④ 事業実績

## 1) 忠臣蔵交流囲碁大会

赤穂市、上郡町、備前市より大会実行委員 22 名を選出し、開催に向けて計 4 回の大会実行委員会を開催。委員会では大会実行推進体制と役割分担、開催場所、大会実行予算の審議と実績報告及び反省を行った。大会参加者は A クラス 36 名、B クラス 75 名、C クラス 38 名、D クラス 32 名で合計 181 名となった。昨年度までは、チビッ子クラスは別の日に開催していたが、今年度からは 6 級以下の D クラスと統合し、28 名のチビッ子が父兄同伴で参加した。

大会開催状況については、(添付書類 3-1) 第四回忠臣蔵交流囲碁大会開催状況 参照。

ホームページ <http://www015.upp.so-net.ne.jp/ako-rakugokai/no1jisseki.html> にも掲載中

## 2) こども囲碁教室 (次世代のこども、シルバー年代へ囲碁入門講座開催)

## ① こども教室受講生募集活動

昨年度受講者に継続受講案内ハガキ発送、こども教室生徒募集広告掲載 (赤穂民報 4 月 20 日付)

## ② こども教室受講申込生徒数 24 名

(内訳 入門クラス 10 名、初級クラス 14 名、内シルバーの方の参加は 5 名)

## ③ こども教室囲碁講座

平成 25 年 6 月 23 日～平成 26 年 2 月 2 日の間 毎週日曜日 10 時～11 時 30 分 合計 30 回開催

- ・入門クラスは赤穂市加里屋まちづくり会館にて開催

囲碁の基本ルールの理解と、9 路、13 路、19 路盤での実戦対局を通して指導

- ・初級クラスは赤穂楽碁会囲碁サロンにて開催

囲碁の基本手筋、定石、布石についての講座と実戦対局指導

- ・次世代のこどもに囲碁の面白さを教え普及するために、花岳寺通り商店街の土曜夜店

(6 月 15 日～7 月 13 日 間の土曜日) にて、「親子ふれあい囲碁あそび」を開催。

その間、楽碁会囲碁サロンを開放し、囲碁を知らない子にゲームをしながら碁石に触れ楽しんでもらった。

## 2 事業実施の成果

### 事業実施の成果

日本の伝統文化である囲碁を通じて地域間交流、世代間交流を活発にし、人口減少が進む東備西播地区の活性化を図るために、近隣の2市1町(赤穂市、備前市、上郡町)が中心となって、他地域にも呼掛け、住んで良かったと思える活力ある地域作りに、貢献することを目標として活動している。

また大石内蔵助が残した囲碁に関するエピソードや、愛用の碁盤等をもとに、囲碁の町赤穂をPRした

#### 1) 忠臣蔵交流囲碁大会 (添付書類3-1) 参照

- ・大会開催も四回目となり、赤穂義士祭を盛り上げるイベントとして、その名も定着しつつあり、京阪神地区からの参加者も徐々に増えてきている。今回赤穂義士「近松勘六」の子孫に当たる方が京都から駆け付けて、大会を盛上げて頂いた。
- ・今年度参加者181名の内、核になる2市1町(赤穂市、備前市、上郡町)からの参加は106名(58%)を占め囲碁を通じて、県境を跨いだ西播磨/東備前の地域間連携と交流基盤をより強固にした。
- ・大会も、インターネットホームページからの参加申込が徐々に増えてきている。
- ・昨年度に引続き関西福祉大学の全面的なご協力の下に、会場として大学構内の設備を利用させて頂き、素晴らしい環境の中で開催する事が出来た。
- ・大会開催に当たっては昨年度を超える43社の地元企業、商店、旅館、漁業組合及び数名の個人から協賛頂き、参加賞、入賞賞品、他に利用させて頂いた。  
なお協賛頂いた会社名は、インターネットのホームページに掲載するとともに、賞品の目録を作成し賞品と一緒に参加者に手渡し協賛会社の宣伝をさせて頂いた。(添付書類3-3)

#### 2) こども囲碁教室(次世代のこどもへ日本の伝統文化である囲碁の伝承、シルバー世代への囲碁の普及)

- ・近年、囲碁は感性をつかさどる「右脳」の発達を促進し、ボケ防止にも有効なゲームとして見直され3才から9才台まで老若男女を問わず対等に楽しめる、数少ないゲームである。
- ・「右脳」は3～13才の間に、80%の発達を終えると言われているが、その時期に当たる幼稚園、小学生に囲碁を教える事は非常に意義のある事である。当こども囲碁教室この5年間で受講生は累計で60人を超え、この囲碁で鍛えた「右脳」の力で、バランス感覚と大局観を備え辛抱強く先読みの出来る大人に育って行って欲しい。
- ・こども囲碁教室の受講生も、アマチュア最高のレベルに到達しプロを目指す院生として修業している子や、入段近くまで来た子も出てきている。
- ・今年度から、忠臣蔵交流囲碁大会のDクラスを、こどもとシルバー年齢を交えた世代間交流対局の場として設定した。  
こどもの参加者は赤穂市15名、上郡町2名、相生市6名、たつの市5名と地域的に見ても、広がって来ている。

(添付書類2)

## イベント等事業収支決算書

1 期間 平成25年度 (平成25年4月～平成26年2月)

2 収入の部

(単位;円)

科目		金額	備考
事業推進支援金(ア)		200,000円	東備西播定住自立圏民間イベント事業支援金
事業収入 (参加料)	チャンピオン大会(A,B,Cクラス)	298,000円	2,000円 x 149名
	Dクラス大会	20,000円	大人1,500円 x 4名 + こども500円 x 28名
	こども教室(シルバー受講料)	20,000円	1,000円 x 20人月(延べ)
小計		338,000円	
自己資金	忠臣蔵交流楽基会前年度繰越金	26,382円	
	協賛金・寄付金	73,000円	企業4社、個人5名
小計		99,382円	
収入合計(イ)		637,382円	

※ 収入科目は、収入金額の種類(自己資金、他団体負担金、参加費等)に分けて、それぞれ記入してください。

※ 他から助成を受けた場合は、「その他の助成金(補助金)」の欄に記入してください。

3 支出の部

(単位;円)

科目		金額	積算内訳
助成対象経費	謝金	164,000円	こども教室講師、事業協力謝金(大石神社/花岳寺)
	旅費	0円	
	事務用品(事務用品、教材費 他)	45,522円	文具費、印刷費、囲碁テキスト代他
	通信費(募集案内、事務連絡)	30,840円	ハガキ、切手
	委託料	88,400円	審判長謝礼(宿泊料含む)
	会場費	166,570円	大会会場/こども教室賃借、会場設営費、対局設備
小計(ウ)		495,332円	(ウ) ≥ (ア)
対象外経費	昼食費	122,550円	予選大会、決勝大会
	会議費	10,054円	
	謝礼他	5,320円	
小計		137,924円	
支出合計		633,256円	
次年度繰越金		4,126円	
合計(エ)		637,382円	(エ) = (イ)

※ 収入と支出の合計は一致させてください。

## 第四回忠臣蔵交流囲碁大会開催状況

今年度の忠臣蔵交流囲碁大会は11月30日関西福祉大学にて開催され、棋力に応じてA,B,C,Dクラスに分かれて熱戦が繰り広げられた。今回赤穂義士[近松勘六]の子孫の方が京都から初参加し、又遠路長崎市から女性が参加するなど大会の雰囲気盛り上げて頂いた。初級者対象のDクラス大会はチビっ子28名が参加、若々しい声で元気一杯に石を打ち付けていた。翌2日チャンピオン戦決勝トーナメントでは、Cクラスで神戸の小学1年生松浦君が勝ち進み予選から7連勝し、見事Cクラスチャンピオンに輝いた。

- 1) 参加者数 181名 (クラス別内訳 Aクラス36名、Bクラス75名、Cクラス38名、D[こども]クラス32名)  
 (地区別内訳 赤穂市72名、上郡町9名、その他西播36名、備前市25名、その他39名)

### 2) 大会成績 ①チャンピオン大会 上位入賞者

順位	Aクラス			Bクラス			Cクラス			Dクラス
	氏名	段	市町	氏名	段	市町	氏名	級	市町	全勝賞
優勝	西山知良	6段	赤穂市	横田正宏	4段	赤穂市	松浦達也	4級	神戸市	山本奈波(相生市)
準優勝	三田村譲	8段	豊中市	鈴木春夫	3段	赤磐市	小川利雄	3級	赤穂市	谷川凌斗(たつの市)
3位	井土雄介	6段	姫路市	横田則征	3段	赤穂市	万代三行	1級	赤穂市	新免太基(赤穂市)
4位	井上次男	6段	瀬戸内市	田中誠二	4段	赤穂市	中本定行	4級	赤穂市	

3) この忠臣蔵交流囲碁大会に対して、40社を超える地元企業、商店、御崎観光旅館、漁業組合、備前焼き 他、多数の賞品を提供頂き、参加賞、入賞賞品他に充当させていただきました。この書面をお借りして厚く御礼申し上げます。

### 4) 大会スナップ写真

オープニング傘踊り



大会開会式



予選大会の様子



Dクラス(チビっ子)大会参加児童



豪華入賞賞品



各クラス入賞者



決勝トーナメント戦



# H25 こども囲碁教室活動状況

H25年度  
こども  
囲碁教室

スタート時  
H25.6.23

教室の様子



忠臣蔵交流  
囲碁大会

H25.11.30  
Dクラス大会  
の様子



田中康湧君  
院生に

(赤穂民報)  
H25.4.20

**プロ棋士目指す登竜門  
高等部から「院生」に  
小学6年の田中康湧君**

加里原の碁会所に通い、1回通う相生市大石町のアマ6段、田中康湧君(11)は中央小6年IIがプロ棋士の卵、「院生」にこのほど昇格。トップレベルのジュニア棋士たちがしのぎを削る厳しい世界へと飛び込んだ。

田中君は6歳で囲碁を覚え、「赤穂碁会」が花括通商店街で開く碁会所に小3の秋から通っている。アマ7段の黒田紀典会長(72)をはじめ高段者との手合わせで力をつけ、わずか1年でアマ3段格に。一昨年9月、同世代の強い相手と打ちたい」と、エリートが集まる関西棋院高等部に入部した。

最初の半年間は環境に慣れず、級を決めるリーグ戦で黒星続き。「このままなら囲碁に行かせない」と母親から言われ、やる気に火が付いた。不利な形勢になっても粘り強く好機をつかかう我慢の囲碁でそれ以降は一度も負け越さず、トントン



拍子に昇級。高等部最後の対局日は4戦全勝、さらに詰め碁試験も100点満点というパーフェクトな成績で卒業した。

関西棋院の院生は約20人。実際にプロになれるのは競争を勝ち抜いた一握りで、数年にわたって一人も院生しないこともあるという。関係者によれば、田中康湧君)

プロ棋士から「田中君を弟子に迎えたい」と打診を受けたが、本人は「囲碁と同じくらい大好きな合唱とピアノを続けたい」とマイペースだ。

黒田会長は「赤穂、相生からの院生は、おそろく初めて。甘くはない世界だが、勝ち進んでほしい」とエール。

田中君は「指導してくれたみなさんへの感謝を忘れず、強くなりた」と話している。(写真：プロ棋士の卵「院生」に昇格し、黒田紀典会長から励まされる田中康湧君)